



## 近江商人の精神的風土の継承的发展をめざして



今年から、VEC関西支部の方々のご縁で大阪滋賀県人会の会員になった。振り返れば、ご縁以前に滋賀県との様々なかかわりがあったのに気づかされる。国民的作家である司馬遼太郎の《街道をいく》シリーズの第1巻（1971年刊行）は「湖西のみち」から始まっている。私は、琵琶湖沿いのみちではなく、大学入学時の1974年の春に比良山系の稜線伝いの琵琶湖の展望が開けたみちを歩いた。それは、その後研究者になって数多くのフィールドワークや実態調査の起点ともなっている。第24巻の「近江のみち」において、「どうにも近江が好き」という司馬と同様の思いから、下山するにつれて次第に近づいてくる、夕闇に浮かぶ湖畔の街の灯りに、人々の心の温かさを感じ取った。そのそこはかとなく輝く街の佇まいに、近江の精神的風土の祖型にふれたのかもしれない。そういえば、今年生誕100年を迎えた故池波正太郎も、こよなく近江の食と風土を愛したことで有名である。

私の師匠・故川島哲郎（大阪市立大学名誉教授、元阪南大学学長）も、近江商人の聖地・東近江市五箇荘町の出身であった。関西国際空港の誘致と運営、大阪ベイエリア開発や関西・大阪経済の振興に生涯尽力した川島の社会的貢献は周知のことである。滋賀県立琵琶湖研究所の立ち上げにも関与され、門前の小僧であった私は、先生の命で研究所の蔵書の選定をするお手伝いをしたことなどが思い出される。五箇荘で近江商人の魂を育てた寺子屋教育の師匠である川島俊蔵とは、どのような奇縁で結ばれているのかどうか？は、今は知るよしもない。しかし、「三方よし」を育んだ豊かな精神は、大阪商科大学（現大阪公立大学）での研鑽を通じて学問に具現化され、私を含む多くの学生に今でも多大な影響を与えている。

商学や経営学、経済学などの社会科学専攻の研究学徒は、テーマこそまちまちであっても、広く「三方よし」精神の論理的・実証的な探究を通じて、それを「かたち」として論文としてアウトプットすることといっても過言ではない。それは、近江商人の「三方よし」の最適解を求めるベンチャー精神の発露による行商の難業の旅と似ているかもしれない。

近江商人の魂と精神は、滋賀県人会連合会の全国ネットワーク、世界にまで及ぶ支部網を一瞥しただけでも、そのローカルにしてグローバルな性格は理解される。そうだとすると、日本のそのグローバル性は、近年頃に日本のアメリカ化と同義の「資本よし」に強く傾斜し、日本独特の「世間よし」との齟齬をきたし軋んでいるように見受けられる。いまこそ、日本の「世間」と欧米流の「社会」とのズレを埋めつつ、より普遍性ある「世間」に近づけながら、「世間よし」を生み出した近江商人のもつローカル性を異次元の装いで発揮させることが求められている。大阪万国博覧会2025の開催を前にして、関西の土壌に根差した伝統的なベンチャー精神が広く共感され、近江商人の「三方よし」の理念が関西、日本、そして世界を変革する礎になることを期待したい。それは「近江」を超えた「近江」を構想し実現する未来を切り開く「近江商人」が再生・創発される旅でもある。



阪南大学名誉教授 石井 雄二

### ◆地域活性化起業人としての兵庫県赤穂郡上郡町

昨年10月よりTRAPOL合同会社の事業の一環として兵庫県赤穂郡上郡町役場の地域振興課に「地域活性化起業人（企業人材派遣制度）」として赴任しております。地域活性化起業人とは「地方公共団体が三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間（6ヵ月から3年）受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら地域独自の魅力や価値の向上などにつながる業務に従事してもらう制度の事です。

この話が持ち上がった時には別の業務に従事しておりましたが月の半分（10日～11日）を実際に上郡町で業務ができることが絶対条件でこれに該当する人物が私しかいませんでした。

上郡ってどんなところかわからなかったのので引き受ける前に現地調査に行ってきたのですが印象としてはこれと言って特段有名な施設や名所があるわけではないのですが町の真ん中に千種川という名水100選に選ばれている綺麗な川が流れ、周囲を低い山に囲まれた静かな田舎町というのが第一印象でした。調べると大小スーパーが3つ、大型電気店が1つ、コンビニが4つと普通の生活をする上では特に不便が無く、それより広葉樹林の山の美しさ、澄んだ空気、水の美味しさ、町の至る所に流れる用水路、人口の少なさが気に入り二つ返事で引き受けることにしました。

上郡へはJR利用が便利で大阪から姫路経由で1時間30分の距離、車でも高速を使えば2時間と意外と便利です。上郡に住み始めて最初に感じたのは夜はほんまに暗いということです。

酔っぱらっての帰り道に用水路に落ちかけたことが2度ほどあります。

夜というのは暗いんだと実感しましたがその分星々が綺麗で上郡が気に入った一つにもなっています。

昨今、在宅勤務が定着してきましたが上郡には古民家がたくさん有り家賃も安く若い世代が住むには環境が良くネット環境も整備され休日には自然に親しむことが出来る場所がたくさん有る恵まれた場所なので在宅が多い若い世代の人にはぜひ定住移住をお勧めいたします。

近くには赤穂市・たつの市・佐用町・岡山の備前や美作市があり車や智頭急行ですぐに行けます。

上郡は信号が少なく平坦な道が多いのでサイクリング好きな私にとってはお気に入りのサイクリングコースも有ります。

こちらで家を借りての生活ですが大阪からは車で通っているんですがここへ来るルートが色々ありドライブも好きな私にとっては毎回違うルート（もっぱら下道ですが・・・）で沿道の風景を楽しんでいます。

六甲山系を挟んで南北に海沿いのルート、山沿いのルートと瀬戸内の風景や日本の田畑の原風景の中を走る楽しさを是非皆様にも味わってほしいものです。

これまでの人生の中であまり関わりのなかった西播磨地方と繋がれたこと、住む人の人情の良さなど住めば住むほど好きになってくるこの上郡町に貢献できる充実感など人生の終盤になって携われることになった幸せを今感じています。

今回は上郡の紹介でしたが地域活性化起業人としての仕事内容はまた別の機会があればご報告するようにします。

TRAPOL合同会社 本社営業所長  
上郡町役場・地域振興課 地域活性化起業人 柴辻 章





## チャットGPTにまつわる話

### 1. はじめに

今話題になっているチャットGPT<sup>1)</sup>を代表とする対話型AI（人工知能）は、「パソコンやインターネット、スマートフォンの登場時と同等、あるいはそれ以上の社会的な影響があると思う」と評価している方もいます。チャットGPTは国内でも急速に利用が広がり、社会や企業活動を大きく変革する可能性がある技術として期待される一方、教育や雇用などへの影響を懸念する声も出ています。

そこで、昨年の11月から世界的に話題となっているチャットGPTなどに関連した対話型AIについて、現時点での話題を提供したいと思います。

### 2. 具体例と効果

対話型AIであるマイクロソフトの検索エンジンBing<sup>2)</sup>を用いてみます。例として、「今話題のチャットGPTを小学生でも理解できるように説明してください。」と入力して数秒で、「小学生でも理解できるように説明すると、チャットGPTとは、おしゃべりが得意なロボットです。チャットGPTは、あなたが聞きたいことに答えてくれます。チャットGPTは、たくさんの本を読んで勉強したので、いろいろなことを知っています。チャットGPTは、おしゃべりだけでなく、ゲームやコンピューターのこともできます。チャットGPTは、まだ新しいロボットなので、みんなが興味を持っています。」と返答がありました。

本当に便利なツールです。チャットGPTが得意とする分野は、①質問に答える②文章を作成③アイデアを提案④言語学習のサポート⑤プログラムのコードを生成などがあります。

### 3. AIに仕事が奪われる？

チャットGPTなどの対話型AIの影響を受けやすい職業として、数学者、税理士、会計士などで、影響の少ない職業として、自動車などの整備士、調理師、アスリート、大工などという報告もあります。つまり、対話型AIに仕事を奪われるという懸念もありますが、例えば、新たな職種として、自然言語処理や機械学習などのテクノロジースキルや文章力や言語能力などが求められる「プロンプトエンジニア」があります。

また著作権侵害や個人情報の取扱いに懸念がありますが、対話型AIを積極的に活用して生産性向上の良きパートナーとして活用し始めているビジネスが増えつつあります。

### 4. おわりに

マイクロソフトの検索エンジンBingを用いて具体例を示しました。参考までにグーグルの「Google Bard」は生成できる言語が英語に限られているようです。身近なLINEでもチャットGPTの体験ができるようですので、ゲーム感覚で試してみても如何でしょうか？ LINE公式アカウント「AIチャットくん」なら、LINEのトーク画面に質問を送るだけでチャットGPTが利用できます。

最後に、対話型AIの登場で、人間は考えなくなったと考える輩である人間をやめた！>としないことを祈っています。



注1) チャットGPT：Chat Generative Pre-trained Transformerの訳は、「生成可能な事前学習済み変換器」という意味。

OpenAI社のGPT-3.5（2021年9月までの情報を無料で公開）

注2) Bing：2023年2月に更新されたGPT-4が搭載されたマイクロソフトの対話型AI

<参考資料>「ChatGPT/Bing/Google Bard AI検索超活用術」：DIME、JULY、2023小学館

工藤 英男（太成学院大学教授）

## ◆フrazilとのビジネス連携を再構築中

輸出入事業「FLOR AZUL」代表の田中美果と申します。取り扱い商材は客先の依頼次第なので様々ですが、輸出品は日用雑貨、輸入品は工業用原材料が多いです。取引がある国はブラジル、中国、韓国などですが、その中でもブラジルは最も重要な国です。

弊社のような小規模事業者が海外の公的機関との仕事をさせて頂くことがありますが、ブラジル関連ビジネスで得た信頼によることが大きいのです。京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科卒業ということで以前勤めていた会社の中南米部署の配属、独立後にブラジルビジネスセミナーを主催したことがきっかけで新聞取材を受け、他の貿易会社があり扱わない国にコネクションがあるので輸入案件のご依頼を頂くことが増えました。

ワールドカップやオリンピック等の国際イベント開催後は「今さらブラジルでもないでしょ？」という声を聞くことも少なくないですが、注目されていた当時は中途半端に開拓されて放置状態だと感じております。ブラジルの本当の飛躍はこれからまだまだ多くのチャンスが埋もれているのです。

コロナウイルス感染拡大やロシアの侵攻の影響で世界中のサプライチェーンが崩壊し、新たな供給元としてブラジルが注目されつつあります。弊社にも資源関連の調達依頼を頂くことがありますが、やはり一番の資本は「信頼出来るパートナー達との連携」です。

距離的に頻繁に会うことは難しくても、WhatsApp等のSNSを利用してパートナー達との交流は密にしています。

アフターコロナでブラジルからの来日も再開し新しい案件も増えつつあります。単に商材の輸出入だけでなく、念願のコラボ事業も準備中です。

天然資源、豊かな発想力、ブラジルビジネスの可能性は未知数です。

<写真①> 「FOODEX JAPAN 2023」のブラジルコーナーにてパートナー達と一緒に

<写真②> ミナスジェライスからの来阪者たちと



<写真①>



<写真②>

FLOR AZUL 代表 田中美果

## <VEC関西支部 事務局だより>

「ナニワ鏡工業株式会社 代表取締役社長 谷村公二様が春の叙勲を受賞されました。」

VEC会員のナニワ鏡工業株式会社の谷村社長が春の叙勲、旭日単光章を受賞されましたことは、VECにとりまして大変光栄に感じているところです。谷村社長はナニワ鏡工業株式会社においても次の製品は何か、他企業発展のため、粉骨惜まず研究を続けてこられました。

またその勢いはVECにもおよび、交流会等も寄与されています。

今回の受賞を谷村社長だけでなくVECの会員企業様にも幅広くお伝えして、お互いに喜びをともにしたいと考えます。

VECは世にない新しいものを生み出す機関です。そのために学び意識の高揚に心がけております。世の変遷を乗り越えながら次の時代を目指していくものでなければなりません。谷村社長のご苦勞を私達も取り入れ今後の発展の基礎に活かしていきたいと思っておりますので、谷村社長にはなお一層お身体に気を付けて躍進されることを祈念いたします。

(一財) VEC関西支部長 山脇 雅則

